## 機器・システム紹介

# 必要な情報、簡単に活用

## クラウドの強み前面に

### トランストロン

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、大岡信一社長）は今夏、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）「DTS-D1」シリーズを発売した。

五年前に発売した「DTS-C1」の機能を継承しつつ、ドライバーの安全運転を支援する機能を拡充。運行支援サービスの完全ウェブ化により、タブレットでの運行情報の確認も可能で、「必要な時に必要な情報を手軽に安全運転教育に活用できる」環境を整えた。

現在、ネットワーク型デジタコ「DTS-D1A」、ドラレコ搭載型の「DTS-D1D」の荷機種を販売中。どちらもLTE通信とクラウドシステムにより、多彩なサービスを受けられる。

ネットワーク型デジタコは、運転状況をリアルタイムに確認できる。新製品は問題のある運転を検知した際、運行管理者が即座に対応を図り、点呼などで活用できる仕組みをつくった。

DTS-D1シリーズは必要な情報を簡単に利用できるよう、各機能を強化した。その一つが充実したドラレコ機能。車内外に計五台のカメラを設置できる。九十二万画素のデジタルカメラには、車線逸脱、前方車両との車間距離を検知する

事業者の安全運行を支援するため、各機能を強化した「DTS-D1D」

機能を搭載。ドライバーに警告を出すとともに、運行管理者にも通知され、帰庫後の点呼で的確な教育を可能とした。

営業所には五分ごとに各車両の静止画が自動送信される。運行管理者はこれと急ブレーキなどのイベント情報を起点に、三十秒のHD画質動画を無制限に取得。一車両当たり五十件までクラウドセンターに保存できる。保存動画はカードの抜き差しが不要で、安全教育ですぐ役立てられる。

「安全意識の高いドライバーは車間距離、運転の姿勢などで手本となる点が多い。危険運転の指導とともに、模範ドライバーを増やすことにも新製品を活用してほしい」（トランストロン）。

### 安全役立つ多様なサービス

危険運転を検知すると警告を出すほか、事務所からのメッセージ送信によりその場での指導も可能。音声通話オプションを活用すれば、直接ドライバーと会話ができ、多彩な指示を出せる。

また、運行支援サービスも「ITP-WebServiceV2」に刷新。完全ウェブ化により、運行管理者らは外出先からもタブレットでドライバーの運行情報を確認できるようになった。

据え置き型、モバイル型アルコール検知器などとの連携にも対応。富士通製ネットワーク型デジタコを使う他社と危険地帯を共有する「急ブレーキ多発マップ」を利用すれば、曜日・時間帯・進行方向ごとに分析された全国の急ブレーキ地点を安全教育に活用できる。

「クラウドは収集情報を、さまざまな形で手軽に活用をできる。新製品の導入ユーザーからは、定期的に送られる静止画で天候を把握できるので、より安全な運行につなげられるといった活用方法も聞かれる」（同）。

本体価格は「DTS-D1D」の場合、デジタルカメラセットを含め二十七万九千円。運行支援サービス利用料は運行支援、動態把握、Q&Aなどを含め、一車両当たり月額二千六百九十円（いずれも税別）。問い合わせ先は情報機器営業部、電話045（476）4640。（小林 孝博）